

発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点

「発達の段階一覧表」を踏まえた内容項目の理解

Before



道徳科の授業で児童生徒に考えさせたいことを、もっとはっきりさせたいなあ。内容項目について、どのように理解すればよいのかな。



「『道徳の内容』の学年段階・学校段階の一覧(以下「内容項目の一覧」)」(学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」小学校P26,27 中学校P24,25)と「発達の段階一覧表」を踏まえて、**ねらいとする道徳的価値**を明確にしましょう。ねらいとする道徳的価値を明確にすることで、児童生徒に考えさせたいことがはっきりしますよ。

例) 小学校3学年 内容項目「勤労, 公共の精神」の理解

「内容項目の一覧」で、前後の学年と比較しながら内容項目を見てみましょう。

< 「内容項目の一覧」より一部抜粋 >

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年
勤労, 公共の精神	働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	働くことの 大切さ を知り、進んでみんなのために働くこと。	働くことや社会に奉仕することの 充実感 を味わうとともに、その 意義 を理解し、公共のために役に立つことをすること。

表現が重なるところと違うところがありますね。

例えば、低学年の「よさ」と中学年の「**大切さ**」の違いに注目することで、指導する学年の児童に**どのようなことを考えさせたいか**が分かります。

さらに、「発達の段階一覧表」を踏まえて、働くことの「**大切さ**」について考えてみましょう。

< 「発達の段階一覧表」より一部抜粋 >

「発達の段階一覧表」			
低学年	中学年	高学年	中学校
・教師や保護者など大人が決めることが正しいことであり、それに従うことが正しいこと	・自分の損得が道徳判断になったり、身近な他人から「よい子」と評されることに価値があると考えたりするようになる。	・自律的な態度が発達し、自分の行為を自分の判断で決定しようとするに伴い、責任感が強くなり批判的な能力も備わってくる。	・自我に目覚め、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意識が高まるとともに、人間としての生き方についての関心が高まっていく。
人の考え方や感じ方が自分と同様である思い込みがちになる。	・相手の気持ちを感じたり、より深く理解したりすることができるようになる。	・自他を客観的に捉えることができるようになる。	・客観的事実と自意識の違いに悩むようになる。
・具体的経験や 結果 に注目して考える。	・ 行動の動機 に注目して考えることができるようになる。	・行為の結果とともに動機も十分に考慮できるようになる。	・社会規範としての規範や今までの自分の価値観を捉え直すことができるようになる。
結果重視の考え方		動機重視の考え方	・行為の結果と動機どちらも踏まえる。 ※場面や状況に応じて、「結果重視」のどちらの側面からも物になる。

低学年の児童は「手伝いをすると気持ちがいい」等、**結果に注目して考える**ことが多い時期ですが、中学年の児童は「しっかりと仕事をするのは大切。なぜなら…」と**動機に注目して考える**ことができる時期ですね。

中学年の児童には、**仕事をする意味を自分なりにしっかりと捉えさせることが大事**であることが分かりますね。

3学年の内容項目「勤労, 公共の精神」では、ねらいとする道徳的価値を「**自分の仕事の意味や役目を理解して、進んで働こうとする思いを持たせたい**」としました。

After

「発達の段階一覧表」を踏まえて内容項目を理解することで、道徳科の授業で児童生徒に考えさせたいことをよりはっきりさせることができました。

